

黒滝村プロフィール

大峯修験道により開かれた

黒滝村の歴史

吉野山の南に位置する黒滝村は、修験道との関わりが深く、大峯山修験道の開祖とされる役行者が、白鳳六年（672）に勅命により国家安泰の祈願道場として開山したことに始まります。その後、修験道中興の祖理源大師聖宝が寛平七年（895）に鳳閣寺を開き、修験の拠点としました。

また、吉野最大ともいえる伝統行事「花供法会式」を始めたと言われる高算上人は槇尾の地に滝金寺を開きました。やがて、林業の隆盛で江戸幕府の直轄支配を受けようになるところには、黒滝郷として黒滝村の前身ともいえる地域コミュニティが確立されるようになりました。

その後、明治政府が誕生し、町村制が公布された明治22年には黒滝郷は丹生郷と合併して南芳野村として発足します。

しかし、当時の社会資本からみて村として経営するには難関となる事項が多く、再三の政府への働きかけにより、分村が認められ、明治45年に黒滝村が誕生しました。その後、昭和24年の境界変更を経て、現在に至っています。

世紀	西暦(元号)	出来事
7世紀	672	壬申の乱 大友皇子、大海人皇子に敗北
	678(白鳳6年)	役行者が勅命にて根本道場を開創
8世紀		
9世紀	894	遣唐使が廃止され、国風文化が花開く
	895	理源大師聖宝が鳳閣寺を開く
10世紀		
11世紀		
12世紀		
13世紀		
14世紀	1369(正平24年)	理源大師廟塔建立(重要文化財)
	1336~92	後醍醐天皇、吉野へ 南北朝時代
15世紀		
16世紀	1595(文禄4年)	太閤検地黒滝でも
	1592-97	文禄・慶長の役 豊臣秀吉、朝鮮出兵
17世紀	1639	鎖国令を発令
	1648~51	黒滝郷での植林開始
18世紀		
19世紀	1888(明治22年)	南芳野村成立(黒滝郷と丹生郷合併) 市制・町村制公布
20世紀	1912(明治45年)	黒滝村成立
	1913(大正2年)	黒滝村役場庁舎開庁
	1914(大正3年)	第一次世界大戦始まる
	1947(昭和22年)	日本国憲法施行
	1949(昭和24年)	黒滝村から才谷区分村 現在の姿になる
	1966(昭和41年)	全国に先駆けアメノウオ(アマゴ)の人工孵化に成功



槇尾地区風景